

●株主メモ

決算期

3月31日

定時株主総会

毎年6月に開催いたします

基準日

3月31日

中間配当株主確定日

9月30日

1単元の株式数

1,000株

名義書換事務取扱場所

中央三井信託銀行(株)大阪支店証券代行部

〒541-0041

大阪市中央区北浜二丁目2番21号

☎(06)6202-7361(代表)

名義書換取次所

中央三井信託銀行(株)本店および全国各支店

日本証券代行(株)本店および全国各支店

(お知らせ)

住所変更、単元未満株式(端株)買取請求、名義書換請求および配当金振込指定に必要な各用紙ご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-87-2031で24時間受付しております。

公告掲載新聞

日本経済新聞

決算公告掲載のホームページアドレス

<http://www.kubota.co.jp/kessan/index.html>

上場証券取引所

国内：東京・大阪

海外：ニューヨーク・フランクフルト

あなたの会社の

中間事業報告書

平成17年4月1日～平成17年9月30日



水と土と空と、人のために。

水のこと、土のこと、街のこと。
人が便利で快適に暮らせる毎日を、社会の根幹で支え、動かしていく力。
それが、私たちクボタです。

株主の皆様へ

株主の皆様には格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社の第116期中間事業報告書をお届けするに当たり、ごあいさつを申し上げます。

はじめに、一連の石綿問題につきましては、株主の皆様にご多大なるご心配をおかけしております。当社の対応につきましては別紙でご説明いたしておりますので、ご理解を賜りますよう、まずはお願い申し上げます。

次に、業績についてご報告いたします。

当上半期（平成17年4月1日～平成17年9月30日）の連結売上高は、農業機械、建設機械やエンジンなどを中心に内燃機器関連部門が国内外で好調だったことに加え、産業用鋳物・素材の好調、合成管の事業統合などにより、前年同期比11.3%増加して4,962億円となりました。連結営業利益は、内燃機器関連部門を中心とした増収や官公需関連事業を中心としたコストダウン・固定費削減、年金費用の減少などにより、原材料価格上昇他の減益要因を吸収し、前年同期比17.1%増加して598億円となりました。連結税金等調整前純利益は、営業利益の増加により、前年同期比14.4%増加して

654億円となりました。連結税金等調整前純利益から法人所得税を控除し、少数株主損益および持分法投資損益を調整した当中間期の連結純利益は、前年同期比30.3%減少して382億円となりました。

なお、中間配当金につきましては、去る11月4日の取締役会において、1株当たり4円とし、本年12月8日を支払開始日とすることに決定させていただきました。

当期の日本経済は、個人消費の緩やかな増加や、企業収益の改善および設備投資の増加など、民間需要に支えられて緩やかに回復しておりますが、原油価格の高止まりからくる国内外の経済への悪影響が懸念される状況です。このような環境のなかで、業績の持続的向上を確実なものとするため、当社は、前期から当期までの2年間を対象とした「中期経営戦略」を策定し、当期においても、これまでの成果を踏まえたうえで、より高い次元での展開を推進しております。今後も企業価値の向上を目指し、全力を傾注してまいりますので、株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年12月

目次

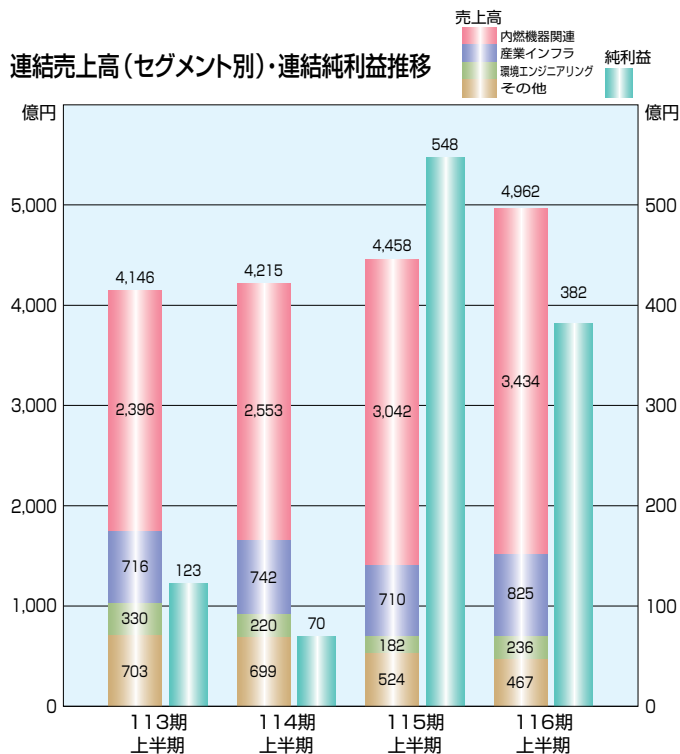
株主の皆様へ	1
連結売上高・連結純利益	3
事業の概況	4
財務諸表(連結)	7
財務諸表(単独)・中間配当金	9
トピックス	10
新製品紹介	12
役員・会社の概要	14



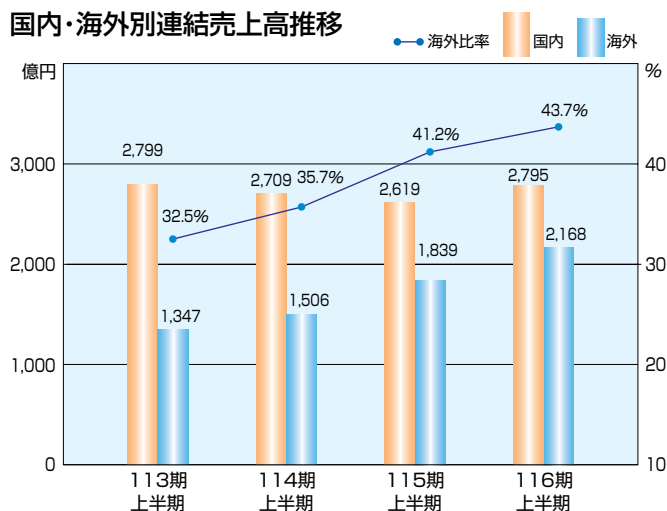
代表取締役社長

幡掛大輔

連結売上高(セグメント別)・連結純利益推移



国内・海外別連結売上高推移



●内燃機器関連部門

内燃機器関連部門の売上高は、前年同期比12.9%増加して3,434億円となり、売上高全体の69.2%を占めました。国内売上高は前年同期比7.4%増の1,387億円となり、海外売上高は前年同期比16.9%増の2,047億円となりました。

国内農機市場は、先行き不透明感の強い状況が続いたものの、需要自体は底堅く推移しました。そうしたなか、当社は、機能を充実させつつ割安感を持たせた「熱血商品」群を核として大規模試乗キャンペーンなどのきめ細かな市場活性化策を強力に推進し、顧客層の拡大とシェア・アップにより売上を伸ばしました。また、建設機械は需要拡大基調を背景に大手レンタル会社向けの販売拡大などを通じて売上を伸ばさせ、エンジンも建設機械メーカーや産業機械メーカー向けを中心に大幅な増販を達成しました。

海外では、需要が世界的に増大しつつある建設機械が主力の欧州市場、急速な拡大を見せる北米市場とともに売上を急伸させ、エンジンも北米および欧州の大手顧客の好況などにより売上を大きく拡大させました。トラクタは北米市場で堅調な伸びを示したのに加え、欧州、アジア市場では大幅な増収を記録しました。特にアジア市場では、成長著しいタイ市場を中心にトラクタ、コンバインなどの稲作用農業機械がめざましい売上拡大を続けています。



●汎用コンバイン エアロスターGP ARH380(麦)

●産業インフラ部門

産業インフラ部門の売上高は、前年同期比16.3%増加して825億円となり、売上高全体の16.6%を占めました。国内売上高は前年同期比14.0%増の727億円となり、海外売上高は前年同期比37.3%増の98億円となりました。

国内では、ダクタイル鉄管は需要の冷え込みが厳しく売上を減少させましたが、合成管は本年4月にスタートしたシーアイ化成株式会社との事業統合により売上を増加させました。産業用鋳物・素材は、鉄鋼、エネルギー分野を中心とする活発な設備投資需要を背景に順調に売上を伸ばしました。また、海外では、産業用鋳物・素材やダクタイル鉄管が堅調に推移し、前年同期を上回る売上を記録しました。



●ダクタイル鉄管

●環境エンジニアリング部門

環境エンジニアリング部門の売上高は、前年同期比29.2%増加して236億円となり、売上高全体の4.8%を占めました。国内売上高は前年同期比26.5%増の216億円となり、海外売上高は前年同期比69.2%増の19億円となりました。

国内では、公共投資予算の縮減や競争激化により市場環境が厳しさを増すなか、上下水エンジニアリング、環境リサイクルが上期納

入物件の増加により増収を確保しましたが、ポンプは減収となりました。海外では、ポンプと液中膜が売上を伸ばしました。



●液中膜 (据付)

●その他部門

その他部門の売上高は、前年同期比10.9%減少して467億円となり、売上高全体の9.4%を占めました。国内売上高は前年同期比10.6%減の464億円となり、海外売上高は前年同期比40.8%減の3億円となりました。

自動販売機はタバコ市場向け、缶市場向けがともに好調を維持し、大幅増収を記録しました。また、電装機器も順調に売上を伸ばしましたが、工事やマンション販売、空調機器などの売上が大幅に減少しました。また、IT関連事業の子会社を売却した影響もあって、部門全体の売上は前年同期を下回りました。

各事業区分に属する主要な製品名

内 燃 機 器 関 連：農業機械及び農業関連製品、エンジン、建設機械
産 業 イ ン フ ラ：ダクタイル鉄管等各種パイプ及びその付属品、パルプ、産業用鋳物・素材

環境エンジニアリング：各種環境装置及びプラント・エンジニアリング、ポンプ

そ の 他：浄化槽、マンション、自動販売機、各種計量・計測機器及び制御システム、空調機器、上下水道・一般土木工事等の設計・施工

※文中における金額は、表示単位未満の端数を四捨五入しております。

財務諸表(連結)

連結貸借対照表の要旨 (平成17年9月30日現在)

資産の部		負債及び資本の部	
科目	金額	科目	金額
	百万円		百万円
流動資産		流動負債	
現金及び現金同等物	83,879	短期債務	166,719
受取手形・売掛金等	272,412	支払手形・買掛金	191,318
短期金融債権	54,612	その他	113,749
たな卸資産	159,057	流動負債計	471,786
その他	115,712	固定負債	214,342
流動資産計	685,672	少数株主持分	26,317
投資		資本	
関連会社に対する投融資	12,735	資本金	84,070
長期金融債権	108,623	資本剰余金	93,150
その他	197,384	利益準備金	19,539
投資計	318,742	その他の剰余金	300,918
有形固定資産	219,537	その他の包括損益累計額	60,652
その他の資産	46,099	自己株式	▲ 724
		資本計	557,605
資産合計	1,270,050	負債及び資本合計	1,270,050

連結損益計算書の要旨 (平成17年4月1日から平成17年9月30日まで)

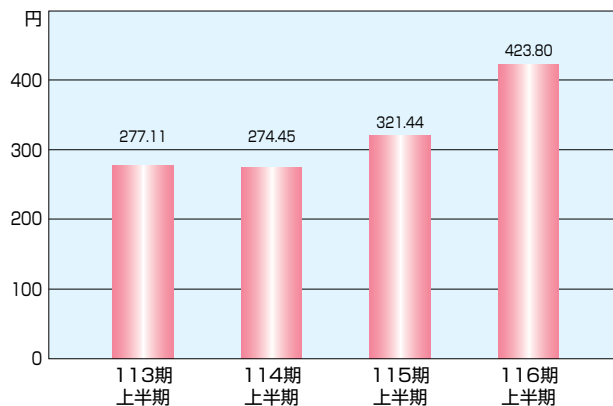
科目	金額
	百万円
売上高	496,229
売上原価	350,672
販売費及び一般管理費	82,322
その他の営業費用	3,425
営業利益	59,810
その他の収益(▲費用)	
受取利息・受取配当金	6,670
支払利息	▲ 2,950
その他(純額)	1,854
その他の収益純額	5,574
税金等調整前純利益	65,384
法人所得税	25,412
少数株主損益(控除)	3,079
持分法による投資損益	1,289
中間純利益	38,182

※連結財務諸表は、米国において一般に認められている会計原則に基づいて作成されています。

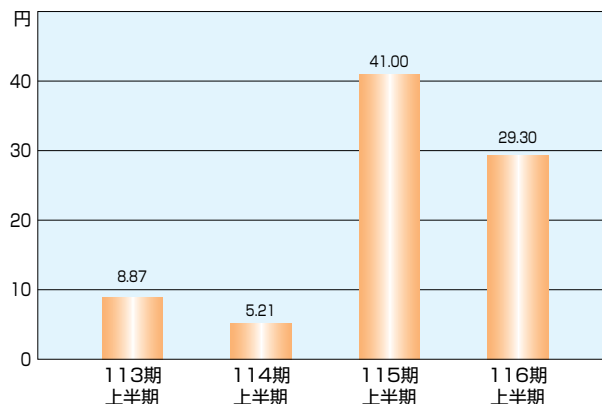
連結キャッシュ・フロー計算書の要旨 (平成17年4月1日から平成17年9月30日まで)

科目	金額
	百万円
① 営業活動によるキャッシュ・フロー	36,196
② 投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 26,694
③ 財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 487
④ 為替変動による現金及び現金同等物への影響	301
⑤ 現金及び現金同等物の純増(①+②+③+④)	9,316
⑥ 現金及び現金同等物の期首残高	74,563
⑦ 現金及び現金同等物の期末残高(⑤+⑥)	83,879

連結一株当たり株主資本(BPS)



連結基本的一株当たり純利益(EPS)



単独貸借対照表の要旨 (平成17年9月30日現在)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流 動 資 産		流 動 負 債	
現金及び預金	41,630	支払手形	8,106
受取手形	28,846	買掛金	132,415
売掛金	202,691	短期借入金	37,077
たな卸資産	70,101	その他	88,195
その他	67,283	小 計	265,794
小 計	410,555	固 定 負 債	130,491
固 定 資 産		負債合計	396,286
有形固定資産	152,029	資 本 の 部	
無形固定資産	3,775	資 本 金	84,070
投資その他の資産	282,175	資 本 剰 余 金	73,057
小 計	437,980	利 益 剰 余 金	212,756
		その他有価証券評価差額金	82,938
		自 己 株 式	▲ 574
		資 本 合 計	452,249
資 産 合 計	848,535	負債及び資本合計	848,535

単独損益計算書の要旨 (平成17年4月1日から平成17年9月30日まで)

科 目	金 額
売 上 高	313,573
売 上 原 価	232,844
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	51,039
営 業 利 益	29,688
営 業 外 収 益	7,209
営 業 外 費 用	5,335
経 常 利 益	31,562
特 別 利 益	2,674
税 引 前 中 間 純 利 益	34,237
法 人 税 等	12,963
中 間 純 利 益	21,273

※表中における金額は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。

中間配当金

- (1) 中間配当決議取締役会 平成17年11月4日(金)
- (2) 受領株主 平成17年9月30日現在の株主名簿(実質株主名簿を含む)に記載された株主
- (3) 中間配当金 1株につき4円
総額で5,264,468,872円
- (4) 支払請求権の効力発生日 平成17年12月8日(木)
及び支払開始日

2005年クボタトラクターコーポレーション(KTC)ディーラーミーティング開催

2005年10月1日から5日までの5日間、米国テキサス州サンアントニオにおいて、米国における販売会社であるクボタトラクターコーポレーション(KTC)のディーラーミーティングを開催しました。

当日は販売の好調さを反映して多くのディーラーが参加し、参加者総数は約2200人にのびりました。サブコンパクトトラクタという新しいカテゴリーを切り開いたB×シリーズのフルモデルチェンジ機、次世代を担う新M型トラクタなど新製品6シリーズ、51型式を今回発表したところ、ディーラーの皆様より大変大きな反響があり、予約受注は予想を大幅に上回るものとなりました。KTCの累計販売台数が100万台を突破するという記念すべき年にふさわしい盛大なディーラーミーティングとなりました。*

石油高騰、金利上昇などの事業環境が変化する中においても、これだけの予約受注を受けたということはディーラーの当社に対する信頼感が強く根付いてきている証であり、2006年のビジネスも心強い手応えを感じています。

*KTCは2005年9月19日(現地時間)にトラクタ、汎用機械など乗用4輪の累計販売台数が100万台を突破しました。



ディーラーミーティング風景



デモンストレーション

コロンボ(スリランカ)の水道を支える

当社が、2003年10月に着工したスリランカの最大都市であるコロンボ向けの水道用大型ポンプ設備が完成し、2005年10月から運転が開始されました。

スリランカの水道普及率は3割に満たない状況に加えて、コロンボ圏の人口増加は著しく、水道の拡張整備は行政の緊急課題のひとつでした。

今回建設されたポンプ設備は、日本政府の有償資金協力で実施される「コロンボ北部上水道事業」の送水設備として当社が受注したもので、水道用としてはスリランカで最大規模のポンプとなります。1台で約35万人分の飲み水を送水する能力を有しており、完成を待ちわびた地元の市民からは大きな期待が寄せられています。

「水は人々の暮らしを支える貴重な資源」。当社は、今後も多くの国々で社会・生活基盤の整備に貢献してまいります。



現地に設置された当社ポンプ設備

クボタトラクタ「ニューキングアイ KTシリーズ」

農業就業者の高齢化が進むなか、より扱いやすく安価な実用型トラクタが求められています。このようなニーズに応えて、ワンクラス上の性能と、ユニバーサルデザインの思想を取り入れた「ニューキングアイKTシリーズ」を発売いたしました。特長は①躍動感あふれるデザイン②使いやすく、わかりやすく、安全に配慮した設計「ユニバーサルデザイン」③年中快適な作業を行える「本格的インテキャビン」④ハンドルだけで楽に一点旋回「U倍速ターン」など、みんなにやさしいトラクタです。



クボタ田植機「キュート JC3」

まだ歩行形田植機をお使いのお客さまのために、シンプル・かんたんで世界で一番小さな乗用田植機「キュート JC3」を発売いたしました。特長は①※業界最小、最軽量の超コンパクト設計&業界初の

乗用形3条植②初めてでも簡単操作「ゆう優ターン」③初めてでも安心「あぜごえ3点セット」④※歩行形田植機並みの価格「業界最安価」など。クボタは美しい棚田や田んぼのある風景を皆様とともに守り続けてまいります。



※2005年12月現在乗用田植機
メーカー希望小売価格52.29万円(税込)

クボタミニバックホー U20-3α U25-3α

近年欧州市場において、回転時に後端部が車幅に収まり、後方の安全確保がし易く機体損傷もしにくい後方小旋回型ミニバックホーの需要が拡大するなか、従来の日本メーカーに海外メーカーも加わり競争が激化してきています。

このような状況下、当社は以前より欧州にて好評を得ております2t~2.5tクラス後方小旋回機に、当社独自の先進技術である盗難防止装置を上位機種同様に搭載し、さらに欧州のお客様のニーズに合わせた各種機能を追加し発売いたしました。

これにより、欧州ミニバックホーシェアNo.1の地位をより確かなものへとまいります。



U25-3α

新型セラミック高速膜ろ過装置を開発・販売

当社はこの度、河川水に含まれる微生物を確実に除去できると共にろ過スピードを速めた「ケーシング収納方式セラミック膜ろ過装置」を開発いたしました。膜処理領域全般をカバーする製品が揃ったことにより、今後、大規模浄水場を

視野に入れた販売を展開いたします。孔径0.1マイクロメートル（1万分の1ミリメートル）のセラミック膜でろ過することにより、水道の微生物リスクとして心配される感染性の原虫「クリプトスポリジウム」を完全に除去できるため、信頼性の高い浄水処理装置といえます。



代表取締役社長	幡掛大輔	取締役	片山盛光
代表取締役副社長	西野昭男	取締役	利國信行
専務取締役	藤尾嘉博	取締役	奈良廣和
専務取締役	林守也	取締役	北岡正好
専務取締役	福田俊弘	取締役	富田哲司
常務取締役	益本康男	取締役	木股昌俊
常務取締役	西口芳治	監査役	中廣正典
常務取締役	篠原栄作	監査役	隅蔵 奨
常務取締役	伊澤宣夫	監査役	前田 淳一
取締役	田畑芳彦	監査役	岨野 悌介
取締役	植田和伸	監査役	末川 義郎
取締役	小路 隆	監査役	水野 讓
取締役	大城徳治	会計監査人	監査法人トーマツ

会社の概要 (平成17年9月30日現在)

社名	株式会社クボタ
英文社名	KUBOTA CORPORATION
創業年月	明治23年2月
設立年月	昭和5年12月
資本金	84,070,280,304円
発行済株式総数	1,317,169,180株
株主数	49,096人
従業員数	8,763名(就業人員)
本社	〒556-8601 大阪市浪速区敷津東一丁目2番47号 tel(06)6648-2111 fax(06)6648-3862
東京本社	〒103-8310 東京都中央区日本橋室町三丁目1番3号 tel(03)3245-3111 fax(03)3245-3822
ホームページ	http://www.kubota.co.jp/